

## どんぐり

花島伸美(千葉市)

日 時：2021年10月10日(日) 10:00~12:00 天気：晴れ  
参加者：14名(おとな7名、子ども7名) 指導員：5名 他1名 計20名  
担当指導員：山下・平田・花島

9月末で非常事態宣言が解除されて、久しぶりの観察会。開始前から「スタジイのどんぐりは食べられるそうですね。どうやって食べれば美味しいですか?」と、質問されたり、子ども達とシラカシでどんぐりゴマを回したりと参加者の意欲に指導員も触発されたスタートとなった。

今回は、昭和の森にある『どんぐりのなる木』を歩きながら見て、色々な種類のどんぐりがあることを実感してもらえるように次のような観察会の流れにした。

①6種類のどんぐりの木(シラカシ・クヌギ・コナラ・マテバシイ・カシワ・スタジイ)について、どんぐりを拾いながら、実の形、殻斗、葉、樹皮をよく観察したり、どんぐりがどこについているかなどを確認してそれぞれの木の特徴を知ってもらう。

②特にこの3種類の木については、より丁寧に観察する。

・シラカシ…実生を探す。どんぐりがどうやって根や本葉を出すかを見てもらう。

・マテバシイ…今年のどんぐりと去年のどんぐりの違いや木の先端を見てもらい、2年でどんぐりが実になることを知る。1年でどんぐりが熟す木と2年で熟すものがあることを知る。

・カシワ…どんぐりに穴が開いているのはなぜか。実を割ったら、幼虫が入っているかを確認する。これはどうやってはいつたか、シギゾウムシの説明をする。

③6種類のどんぐりを拾ったら、班ごとに石のテーブルに集まり、各自6個の紙コップに種類別に分けた後、どんぐりのカードで確認しながら、紙コップにマジックで木の名前を書いてもらう。

④指導員が予め熱湯処理をして虫が出ないようにしたどんぐり6種類を参加者に渡し、各自に渡したどんぐり図鑑用紙に貼り、完成させる。



どんぐり図鑑完成



どんぐりの木と私たち

⑤「どんぐりの木と私たち」というパネルを見せて、どんぐりの木が染色、食べ物、シイタケ栽培、家具など私たちの生活と深く関わっていることをパネルの絵に付箋を貼りながら理解してもらう。

以上の流れに従って、最後にどんぐりゴマのお土産をもらって、解散した。

参加者の感想として、「どんぐりの種類が分かって楽しかった」が多かった。指導員同士の反省で、葉とどんぐりをセットで拾えば理解が深まったのではないかと、という意見も出た。今回参加した子どもの年齢差(2~8歳)による集中力や興味の違いも見られた。どんぐりより生き物に興味を持っていた子どももいた。珍しいシラホシコヤガの幼虫やヒナカマキリを見つけて、みんなで観察する光景も見られた。

最後に、今後少人数限定の観察会に移行することを考えれば、参加者とのコミュニケーションを取りながら参加者の興味関心に共感し、より丁寧な案内が求められると感じた。